

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	広島YMCA専門学校
設置者名	学校法人広島YMCA学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	医療事務科(医療事務・歯科助手コース)	夜・通信	1,830 時間	160 時間	
	医療事務科(ドクターズクラーク・医療事務コース)	夜・通信	1,530 時間	160 時間	
	ホスピタリティ科(国際ホテル・ブライダルコース)	夜・通信	1,575 時間	160 時間	
	ホスピタリティ科(ホテル・デュアルコース)	夜・通信	1,575 時間	160 時間	
文化・教養専門課程	社会体育科(パーソナルトレーナー・フィットネスインストラクターコース)	夜・通信	1,950 時間	160 時間	
	社会体育科(パーソナルトレーナー・フィットネスインストラクターデュアルコース)	夜・通信	1,950 時間	160 時間	
	社会体育科(メディカルフィットネスコース)	夜・通信	1,950 時間	160 時間	
	社会体育科(キッズスポーツコース)	夜・通信	1,920 時間	160 時間	
	言語コミュニケーション科 日本語コース(2年課程)	夜・通信	0 時間	160 時間	※

	言語コミュニケーション科 日本語コース (1年半年課程)	夜・通信	0 時間	120 時間	※
	言語コミュニケーション科 日本語コース (1年課程)	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	言語コミュニケーション科 グローバルコミュニケーションコース	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	言語コミュニケーション科 大学院進学コース	夜・通信	0 時間	80 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

実務修得のための学科ではなく、語学修得が中心であるため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島YMCA専門学校
設置者名	学校法人広島YMCA学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学習塾代表取締役会長	令和元年7月24日～令和5年7月23日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	病院副院長	令和元年7月24日～令和5年7月23日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役	令和元年7月24日～令和5年7月23日	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島YMCA専門学校
設置者名	学校法人広島YMCA学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 年に2回(8月、11月頃)実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、授業担当講師が共通のフォーマットに記載する。3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付。4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。	
授業計画書の公表方法	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる(実技科目は60%未満、実習科目は65%未満)。 なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。 90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修 以上を単位認定とする。 出席率不十分(上記)、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率 80%以上が必要となる。

医療事務科

- 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。
- 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、患者様への共感、思いやりの心を持つこと。また、医療関係者や患者様との良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。
- 3 医療事務、歯科助手、ドクターズクラークなどとして従事するうえで必要とされる専門的な知識、技能を身につけていること。

ホスピタリティ科

- 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。
- 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。
- 3 ホテルやブライダル、観光業などの現場で必要とされる専門的な知識、技能を有し、お客様にご満足いただけるサービスを提供できる能力を持つこと。

社会体育科

- 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。
- 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。
- 3 フィットネスインストラクターやトレーナーなどとして、お客様の健康や運動技能など維持・向上させ、かつご満足いただける運動指導を提供できる能力を持つこと。

言語コミュニケーション科

- 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。
- 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。
- 3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	広島YMCA専門学校
設置者名	学校法人広島YMCA学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。
収支計算書又は損益計算書	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。
財産目録	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。
事業報告書	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。
監事による監査報告（書）	事務所受付にて一般の方にも閲覧可能となっている。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	医療事務科（医療事務・歯科助手コース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,800 単位時間/単位	1200 単位時間/単位	1000 単位時間/単位	390 単位時間/単位	0 単位時間/単位	690 単位時間/単位
			3,360 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		12人	0人	2人の内数	23人の内数	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）【様式第2号の3より再掲】 年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。
成績評価の基準・方法
（概要）【様式第2号の3より再掲】 各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。

<p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修 以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】 各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p> <p>医療事務科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、患者様への共感、思いやりの心を持つこと。また、医療関係者や患者様との良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。 3 医療事務、歯科助手、ドクターズクラークなどとして従事するうえで必要とされる専門的な知識、技能を身につけていること。
<p>学修支援等</p> <p>（概要） 担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (85.7%)	1人 (14.3%)
<p>（主な就職、業界等） メリィホスピタル、チャイルド歯科おとな・こども、ふなはし歯科医院など。</p>			
<p>（就職指導内容） 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。</p>			

<p>(主な学修成果 (資格・検定等)) 医療事務技能審査試験 (医科、歯科) 、調剤事務管理士技能認定試験など。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

<p>中途退学の現状</p>		
<p>年度当初在学者数</p>	<p>年度の途中における退学者の数</p>	<p>中退率</p>
<p>15 人</p>	<p>0 人</p>	<p>0%</p>
<p>(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	医療事務科（ドクターズクラーク・医療事務コース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,800 単位時間／単位	1,080 単位時間 ／単位	1,080 単位時間 ／単位	390 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	540 単位時間 ／単位
	3,090 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		30人	0人	2人の内数	23人の内数	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p> <p>医療事務科</p> <p>1 自分自身を大切に、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p>	

<p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、患者様への共感、思いやりの心を持つこと。また、医療関係者や患者様との良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 医療事務、歯科助手、ドクターズクラークなどとして従事するうえで必要とされる専門的な知識、技能を身につけていること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 広島ハードセンター、淀川キリスト教病院、福島眼科クリニックなど。			
(就職指導内容) 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務技能審査試験（医科）、医療事務作業補助技能認定試験、調剤事務管理士技能認定試験など。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	2人	6.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ホスピタリティ科 (国際ホテル・ブライダルコース)	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,800 単位時間/単位	840 単位時間/単位	1605 単位時間/単位	450 単位時間/単位	0 単位時間/単位	570 単位時間/単位
			3,465 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		23人	6人	2人の内数	21人の内数	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】 年に2回(8月、11月頃)実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】 各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる(実技科目は60%未満、実習科目は65%未満)。 なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修 以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分(上記)、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】 各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p> <p>ホスピタリティ科 1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p>	

<p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 ホテルやブライダル、観光業などの現場で必要とされる専門的な知識、技能を有し、お客様にご満足いただけるサービスを提供できる能力を持つこと。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	8人 (80.0%)	2人 (20.0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>ハイアットリージェンシー大阪、靱スコレコーポレーション、安芸グランドホテルなど。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>ホテル実務技能認定試験、レストランサービス技能検定（3級）、マナープロトコル検定（3級）アシスタント・ウェディング・プランナーなど。</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>親族の病気による帰国。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ホスピタリティ科 (ホテル・デュアルコース)	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年	1,800 単位時間/単位	1,800 単位時間/単位	840 単位時間 /単位	1,605 単位時間 /単位	630 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位
			3,675 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人の内数	19 人	0 人	2 人の内数	21 人の内数	23 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 年に2回(8月、11月頃)実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。					
成績評価の基準・方法					
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる(実技科目は60%未満、実習科目は65%未満)。 なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。 90~100 A 特に優秀な成績で履修 80~89 B 優秀な成績で履修 70~79 C 普通の成績で履修 60~69 D 最低限度の成績で履修 以上を単位認定とする。 出席率不十分(上記)、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。 また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。					
卒業・進級の認定基準					
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。					

<p>ホスピタリティ科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 ホテルやブライダル、観光業などの現場で必要とされる専門的な知識、技能を有し、お客様にご満足いただけるサービスを提供できる能力を持つこと。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	12人 (92.3%)	1人 (7.7%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>マリーゴールドホールディングス、シェラトングランドホテル広島、パークハイアット東京など。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>ホテル実務技能認定試験、レストランサービス技能検定（3級）、マナープロトコル検定（3級）など。</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>中途退学者なし。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	社会体育科（パーソナルトレーナー・フィットネスインストラクターコース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1,860 単位時間／単位	720 単位時間／単位	990 単位時間／単位	930 単位時間／単位	0 単位時間／単位	1800 単位時間／単位
			4,440 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		5 人	0 人	2 人の内数	34 人の内数	36 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修 以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p>

<p>社会体育科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 フィットネスインストラクターやトレーナーなどとして、お客様の健康や運動技能など維持・向上させ、かつご満足いただける運動指導を提供できる能力を持つこと。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	5人 (83.3%)	1人 (16.7%)
(主な就職、業界等) いでしたデイサービス、宇部スイミングスクール、グンゼスポーツなど。			
(就職指導内容) 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者、体力トレーニング検定（3級）、アクアウォーキングインストラクター、介護予防運動トレーナーなど。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	社会体育科（パーソナルトレーナー・フィットネスインストラクターデュアルコース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,860 単位時間/単位	720 単位時間/単位	990 単位時間/単位	960 単位時間/単位	0 単位時間/単位	1,800 単位時間/単位
			4,470 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		8人	0人	2人の内数	34人の内数	36人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p>

<p>社会体育科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 フィットネスインストラクターやトレーナーなどとして、お客様の健康や運動技能など維持・向上させ、かつご満足いただける運動指導を提供できる能力を持つこと。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 周南スイミングスクール、ラフテル Trim 広島、SOMPO ケアなど。			
(就職指導内容) 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者、体力トレーニング検定（3級）、アクアウォーキングインストラクター、介護予防運動トレーナーなど。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	1人	5.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	社会体育科（メディカルフィットネスコース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,860 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年			720 単位時間 ／単位	990 単位時間 ／単位	930 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1,800 単位時間 ／単位
		4,440 単位時間／単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人の内数	5 人	0 人	2 人の内数	34 人の内数	36 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p>

<p>社会体育科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。</p> <p>3 フィットネスインストラクターやトレーナーなどとして、お客様の健康や運動技能など維持・向上させ、かつご満足いただける運動指導を提供できる能力を持つこと。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) SOMPO ケアなど。			
(就職指導内容) 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者、体力トレーニング検定（3級）、アクアウォーキングインストラクター、介護予防運動トレーナーなど。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	社会体育科（キッズスポーツコース）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,860 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年			720 単位時間 /単位	990 単位時間 /単位	510 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	1,800 単位時間 /単位
			4,020 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		1 人	0 人	2 人の内数	34 人の内数	36 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。</p> <p>社会体育科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p>	

2 「愛と奉仕」の精神を理解し、お客様への共感、思いやりの心を持つこと。また、職場関係者やお客様と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を持つこと。
3 フィットネスインストラクターやトレーナーなどとして、お客様の健康や運動技能など維持・向上させ、かつご満足いただける運動指導を提供できる能力を持つこと。
学修支援等
(概要) 担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 株式会社ジェイエスエス			
(就職指導内容) 就職対策の授業での就職活動への取組指導、キャリアセンターによる求人案内と就職試験対策などを実施。個人の希望に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者、体力トレーニング検定（3級）、アクアウォーキングインストラクター、介護予防運動トレーナーなど。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、スクールカウンセリングの活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。また、授業観察を行い、授業の内容、質などの確認を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	言語コミュニケーション科（日本語コース 2年課程）	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,800 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼間		0 単位時間 /単位	2,160 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2年			2,160 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	8人	3人	7人の内数	35人の内数	42人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率80%以上が必要となる。</p>

<p>言語コミュニケーション科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。</p> <p>3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
57人 (100%)	49人 (86.0%)	2人 (3.5%)	6人 (10.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>進学先：県立広島大学、広島経済大学、広島修道大学、山口大学など</p> <p>就職業種：通訳・翻訳</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>個人の希望に沿った進学・就職指導を担当、学科長から行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本語能力試験、日本留学試験など。</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70人	5人	7.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>帰国、在留資格変更（就職）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が個人面談を行うほか、スクールカウンセリングなどを活用し、早めに対応している。欠席が続いた時には保証人にも連絡する</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	言語コミュニケーション科（日本語コース 1年半課程）	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		0 単位時間 /単位	1,590 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
1.5年		1,350 単位時間/単位	1,590 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	61人	55人	7人の内数	35人の内数	42人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率80%以上が必要となる。</p>

<p>言語コミュニケーション科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。</p> <p>3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
47人 (100%)	30人 (63.8%)	3人 (6.4%)	14人 (29.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>進学先：広島大学、島根大学、広島修道大学、広島経済大学など</p> <p>就職業種：通訳・翻訳</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>個人の希望に沿った進学・就職指導を担当、学科長から行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本語能力試験、日本留学試験など。</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	2人	3.8%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>在留資格変更（就職）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が個人面談を行うほか、スクールカウンセリングなどを活用し、早めに対応している。欠席が続いた時には保証人にも連絡する。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	言語コミュニケーション科（日本語コース 1年課程）	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 900 単位時間／単位	開設している授業の種類				
	昼間		0 単位時間 ／単位	1,020 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
1年			1,020 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	5人	1人	7人の内数	35人の内数	42人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率80%以上が必要となる。</p>

<p>言語コミュニケーション科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。</p> <p>3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	0人 (0%)	6人 (85.7%)
(主な就職、業界等)			
進学先：梅光学院大学			
(就職指導内容)			
個人の希望に沿った進学・就職指導を担当、学科長から行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
日本語能力試験、日本留学試験など。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	2人	15.4%
(中途退学の主な理由)		
帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任が個人面談を行うほか、スクールカウンセリングなどを活用し、早めに対応している。欠席が続いた時には保証人にも連絡する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	言語コミュニケーション科（グローバルコミュニケーションコース）	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	900 単位時間/単位	0 単位時間/単位	1,020 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1,020 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		20人	20人	7人の内数	35人の内数	42人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回（8月、11月頃）実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらう。3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる（実技科目は60%未満、実習科目は65%未満）。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90～100 A 特に優秀な成績で履修 80～89 B 優秀な成績で履修 70～79 C 普通の成績で履修 60～69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分（上記）、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率80%以上が必要と</p>	

なる。
言語コミュニケーション科
1 自分自身を大切に、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。 2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。 3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。
学修支援等
(概要) 担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	5人 (50.0%)	0人 (0%)	5人 (50.0%)
(主な就職、業界等) 進学先：広島大学、広島国際大学、福山大学など			
(就職指導内容) 個人の希望に沿った進学・就職指導を担当、学科長から行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験、日本留学試験、TOEIC など。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	1人	7.1%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が個人面談を行うほか、スクールカウンセリングなどを活用し、早めに対応している。欠席が続いた時には保証人にも連絡する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	言語コミュニケーション科 (大学院進学コース)	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 900 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
1年			0 単位時間/単位	1,140 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1,140 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		7人	7人	7人の内数	35人の内数	42人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>年に2回(8月、11月頃)実施される教育課程編成委員会でカリキュラムを検討・策定し、授業科目担当講師を決定。その後、授業担当講師にシラバス作成を依頼し、共通のフォーマットに記載してもらい、3月初旬に学科・学年ごとに集約し、3月の下旬に行われる全体講師会ですべての授業担当講師に配付、4月初旬のオリエンテーション期間に対象生徒に配付している。あわせて事務所受付にて一般の方の求めに応じて閲覧できるようにしている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各科目の特性に応じて出席率、授業態度、提出物、試験結果など、シラバスで設定した評価項目により履修認定を行う。なお、出席率が50%を下回った場合は、自動的に単位不認定となる(実技科目は60%未満、実習科目は65%未満)。</p> <p>なお、成績評価は、上記評価項目を得点化し、以下のように判定を行う。</p> <p>90~100 A 特に優秀な成績で履修 80~89 B 優秀な成績で履修 70~79 C 普通の成績で履修 60~69 D 最低限度の成績で履修</p> <p>以上を単位認定とする。</p> <p>出席率不十分(上記)、もしくは追再試験で成績不十分の場合は E 判定となり、単位不認定となる。</p> <p>また、成績評価 Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点とし、それに単位数を乗じた値の総和を単位数で除した値、つまり1単位当たりの値をGPA値とし、学期ごとに学科別に成績分布および順位を把握している。なお、上記の方法で算出した成績分布表については前期であれば10月下旬作成、後期の場合は2月下旬に作成し、生徒などに公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各学科で設定された教育プログラムを通して以下の資質・能力を身につけ、かつ基準となる単位時間を履修し、単位を修得した生徒に対して校長が卒業を認定する。ただし、言語コミュニケーション科においては、在籍期間中の出席率80%以上が必要となる。</p>

<p>言語コミュニケーション科</p> <p>1 自分自身を大切にし、将来への目標とそれに対して向上し続ける意欲を持つこと。</p> <p>2 「愛と奉仕」の精神を理解し、他者への共感、思いやりの心を持ち、さまざまな人々と良好な関係を構築できること。</p> <p>3 進学やビジネス、日常生活に必要な日本語によるコミュニケーション能力を修得し、また、日本の文化・習慣について理解していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、事務長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>令和2年度在学者なし。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>個人の希望に沿った進学・就職指導を担当、学科長から行っている。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本語能力試験、日本留学試験、TOEIC など。</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>令和2年度在学者なし。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任が個人面談を行うほか、スクールカウンセリングなどを活用し、早めに対応している。欠席が続いた時には保証人にも連絡する。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
医療事務科	100,000 円	700,000 円	60,000 円	演習費
ホスピタリティ科	100,000 円	700,000 円	80,000 円	演習費
社会体育科	100,000 円	720,000 円	80,000 円	演習費
言語コミュニケーション科 日本語コース (2年課程、1年課程)	100,000 円	600,000 円	42,500 円	教材費・保険料
言語コミュニケーション科 日本語コース (1年半課程)	100,000 円	300,000 円	24,000 円	教材費・保険料
言語コミュニケーション科 グローバルコミュニケーションコース	100,000 円	650,000 円	50,000 円	教材費・保険料
言語コミュニケーション科 大学院進学コース	100,000 円	600,000 円	50,000 円	教材費・保険料
修学支援 (任意記載事項)				
入学後、不慮の事態によって学業の継続が困難になった学生に対し、学費負担を軽減するための YMCA 奨学金制度を設けている。 奨学生 A : 月額 20,000 円給付 (返還義務なし) 、奨学生 B : 月額 10,000 円給付 (返還義務なし)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hymca.jp/hyc/disclosure/ 2020年度自己評価については、年2回開催の学校関係者評価委員会(8月、11月)にて確認し、令和3年12月に公開する予定。		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
<p>学校の教育活動その他の学校運営の状況に係る評価を行うため、学校関係者評価委員会を設置する。委員会は3名以上の委員をもって組織され、委員については、(1)卒業生、(2)高等学校関係者、(3)業界関係者、(4)その他校長が認めた者のうちから校長が委嘱する。</p> <p>委員会は、教育活動、学校運営に関すること及びその他の自己評価結果の評価を行う。委員会の評価の中で挙げられた改善が必要な点については、学校内に組織される運営会議で対応について検討する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人職員	令和3年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
株式会社代表取締役	令和3年4月1日～令和4年3月31日	企業等委員
主婦	令和3年4月1日～令和4年3月31日	保護者
主婦	令和3年4月1日～令和4年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hymca.jp/hyc/disclosure/ 2020年度学校関係者評価については、年2回開催の学校関係者評価委員会(8月、11月)にて確認し、令和3年12月に公開する予定。		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hymca.jp/hyc/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	広島YMCA専門学校
設置者名	学校法人広島YMCA学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		14人	15人	15人
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				15人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）				
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	-
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	-

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。